

令和3年度 事業報告及び事業報告附属明細書

自 令和3年4月 1日

至 令和4年3月31日

社会福祉法人志木市社会福祉協議会

目 次

令和3年度事業報告	-----	1
-----------	-------	---

事業報告附属明細書	-----	3
-----------	-------	---

<地域福祉事業拠点区分>

1 法人運営に要する経費	-----	3
2 地域福祉に要する経費	-----	6
3 生活福祉資金貸付事業に要する経費	-----	10
4 相談支援事業に要する経費	-----	11
5 法人後見事業に要する経費	-----	13
6 地域活動支援センターに要する経費	-----	15
7 志木市児童センターに要する経費	-----	17
8 宗岡子育て支援センターに要する経費	-----	19
9 放課後子ども教室・学童保育クラブに要する経費	-----	21
10 居宅介護支援事業に要する経費	-----	23
11 訪問介護事業に要する経費	-----	25
12 志木市福祉センターに要する経費	-----	27
13 志木市第二福祉センターに要する経費	-----	29

<多機能型事業拠点区分>

14 障がい者通所施設（生活介護）に要する経費	-----	31
15 障がい者通所施設（就労継続支援B型）に要する経費	---	33

<公益事業拠点区分>

16 地域包括支援センターに要する経費	-----	36
17 志木市総合福祉センターに要する経費	-----	40
18 宗岡第二公民館に要する経費	-----	42

令和3年度 事業報告

1 総括

近年、少子高齢化や人口減少といった社会環境の変化に加え、長期にわたる新型コロナウイルス感染拡大の影響も加わり、福祉を取り巻く状況が厳しさを増す中で社会福祉協議会には、時代の変化に合わせた地域づくりの中核的役割を担うことが期待されています。

本会では、第5次志木市地域福祉活動計画に基づき「みんながつながり、安心して自分らしく暮らせるまちの実現」の理念のもと、多様な事業活動を展開しているところですが、長期化するコロナ禍により生活困窮、子どもの貧困、地域での社会孤立がさらに顕在化するとともに、外出自粛による高齢者等の身体機能や認知機能の低下など新たな生活課題も生じています。

このため、今年度の事業運営にあたっては、市民が直面する生活課題に対応し、誰もが住み慣れた家庭や地域で自分らしく暮らしていくことができるよう、感染拡大の状況を適宜とらえ、事業の周知や進め方に工夫を重ね、事業を展開してまいりました。

また、感染防止対策の徹底を図りながら、安心・安全に利用できる施設・事業運営、地域福祉活動への支援強化、介護・障がい福祉サービスの適切な提供に努め、「地域共生社会」の実現に向けたさまざまな取り組みを推進しております。

2 重点的な取り組みについて

(1) 生活困窮世帯等への支援

新型コロナウイルス感染症の影響により休業や失業などで生活が困窮し不安を抱えた市民に対し、総合相談体制の強化を図り、通年で生活資金貸付の相談の窓口を設け相談支援を行うとともに、食料支援が必要な方へ食品の提供を行うフードバンク事業を実施しました。さらに年末には、支援が必要なひとり親世帯を対象に米などの食料品の配布を通じ、生活困窮世帯等への生活支援を行いました。

(2) 地域福祉活動の推進

幅広い世代へ情報発信をするため、新たに「インスタグラム」を開設するなど広報活動の充実を図るとともに、福祉教育事業でのオンライン授業の実

施や各事業所においてオンライン会議・研修の導入などコロナ禍においても効果的に事業が展開できるように努めました。また、総合福祉センター、宗岡第二公民館では、無料で利用できるインターネット環境を整えるなど感染症対策と利用促進が両立できる取り組みを行いました。

(3) 高齢者支援の促進

居宅介護支援事業所、訪問介護事業所では、身体機能や認知機能が低下している利用者に近隣のサービス事業所や医療機関と連携して、機能維持・向上のための支援を継続するとともに、地域包括支援センターにおいては、滞っている高齢者サロンや地域活動の再開、多世代が参加できる事業の企画などを地域住民とともに取り組みました。また、福祉センター、第二福祉センターでは、身体機能の低下や社会的孤立を防止するための介護予防事業・各種教室事業を実施しました。

(4) 障がい福祉サービスの充実

相談支援事業所では、経済不安や権利擁護など多問題を抱える世帯や閉じこもりがちな障がい者の相談支援を福祉・教育・医療などさまざまな関係機関と連携を図り、総合的な支援を行いました。また、地域活動支援センター、障がい者通所施設では、利用者が自立した日常生活が営むことができるよう利用者一人ひとりの特性や意向に即した支援を行い、障がい者通所施設においては、利用者の増員、新商品の開発や新たな作業の請負などにより、就労機会を拡大することができました。

(5) 子ども・子育て支援の促進

児童センター、宗岡子育て支援センターでは、子ども向けの遊びの動画やセンターに関する情報を「公式 LINE」を開設するなどしてタイムリーな情報発信に努めました。児童センターでは地域の方が遊びを指導する事業、宗岡子育て支援センターではオンラインによる相談事業や「あそびの広場」を新たに開始しました。また、放課後子ども教室・学童保育クラブでは、タブレット端末を使用して、自主学習に意欲的に取り組む「放課後学習教室」を開始するとともに地域の方々の協力を得て、オンライン交流会など新たなプログラムを開発して実施しました。

サービス区分	1 法人運営に要する経費
--------	--------------

(地域福祉課)

1 事業の概要

社会福祉法人志木市社会福祉協議会の事業全体の管理及び総合的・計画的な事業執行を行うための組織管理を行う部門として、各課間との連絡・調整を図り、適正な法人運営を推進した。

2 支出決算額

勘定科目	決算額 (円)	説明
人件費支出	42,521,353	職員人件費
事業費支出	1,362,607	広報事業、表彰事業等
事務費支出	3,472,122	事務管理費
基金積立資産支出	15,082	横山武治高齢者福祉基金利息積立
積立資産支出	3,158,200	運営調整積立金利息積立 (5,200 円) 指定管理積立金 (3,153,000 円)
繰入金支出	1,925,345	相談支援事業所 (1,849,345 円) 児童センター (76,000 円)
支出合計	52,454,709	

3 重点施策への取り組み

社会福祉法人として経営組織のガバナンス強化、事業運営の透明性の向上、財務規律の強化など、信頼され、安定した法人運営ができるよう、理事会、評議員会などの組織運営体制を整備するため、理事及び評議員の任期満了に伴う一斉改選を行った。

令和4年度から志木市基幹福祉相談センターを受託するため、事務局組織を再編し、計画的な職員募集及び人事異動を行った。

4 主要な施策の成果

(1) 法人運営・役員活動

① 会議など

ア. 理事会 4回

回数	月日	出席者または 合意/定数 上段 理事 下段 監事	議案番号	主な内容
第1回	6月3日	12/12人 2/2人	第7号 第8号 第9号 第10号 第11号	委員会設置規程の一部を改正する規程について 役員等の報酬及び費用弁償支給規程の一部を改正する規程について 評議員選任候補者の推薦について 役員候補者について 評議員選任・解任委員の選任について

			第12号 令和2年度決算及び事業報告書の承認について 第13号 令和3年度第1回補正予算について 第14号 令和3年度定時評議員会について 第15号 令和3年度評議員選任・解任委員会について
第2回	6月24日	10/12人 2/2人	第16号 会長、副会長及び常務理事の選定について
第3回	1月31日 決議省略	12/12人 2/2人	第1号 志木市基幹福祉相談センターの受託について 第2号 定款の一部を変更する定款について 第3号 定款細則の一部を改正する細則について 第4号 事務局組織規程の一部を改正する規程について 第5号 令和3年度第2回評議員会について
第4回	3月8日	12/12人 2/2人	第6号 経理規程の一部を改正する規程について 第7号 役員等賠償責任保険の更新について 第8号 令和4年度予算及び事業計画について 第9号 令和3年度第3回評議員会について

イ. 評議員会 3回

回数	月日	出席者または 合意/定数	議案番号	主な内容
第1回	6月24日	16/19人	第2号 令和2年度決算及び事業報告書の承認について 第3号 令和3年度第1回補正予算について 第4号～第15号 理事の選任について 第16号～第17号 監事の選任について 第18号 役員等の報酬及び費用弁償支給規程の一部を 改正する規程について	
第2回	2月22日 決議省略	17/17人	第1号 定款の一部を変更する定款について	
第3回	3月23日	15/17人	第2号 令和4年度予算及び事業計画について	

ウ. 監事会 1回

② 団体との渉外活動

ア. 総会 7回 (書面)

イ. 新年会 1回

ウ. 寄附 1回

エ. 後援(協力)活動 4件

③ 寄附金の受け入れ 23件 417,065円

(2) 事務局活動

常勤職員7人分の人件費及び事務所の維持管理費など、必要な費用を支出した。

① 課長会議 (全体会議) 18回

② 衛生委員会 12回

③ 代表委員会議 1回

(3) 相談援助実習（社会福祉士）
3大学 計3人 延べ45日

(4) 組織強化活動

① 会員募集及び募金募集

ア. 地区委員会 1回
イ. 特別会員等加入実績 1,018,000円
ウ. 町内会会員加入実績 5,604,500円
エ. 赤い羽根募金実績 3,558,230円
オ. 歳末たすけあい募金実績 2,293,833円

② 福祉功労者表彰 11人 2団体

③ 職員研修

新任研修 2回 33人

(5) 広報活動

幅広い世代へ情報を発信することを目的に Instagram（インスタグラム）を開設した。

① 社協だよりの発行

年4回 各25,800部（全戸配布）

② ホームページ・SNSの運営（令和4年3月31日現在）

ア. Twitter フォロワー数 302人
イ. Facebook フォロワー数 328人
ウ. Instagram フォロワー数 95人

(6) 福祉サービス適正運営

① 第三者委員会 1回（書面報告）

② 苦情受付件数 8件（第三者委員による対応なし）

③ 事故発生件数 37件

サービス区分 2 地域福祉に要する経費

(地域福祉課)

1 事業の概要

小地域を基盤とした福祉活動を支援することにより、福祉コミュニティの形成を図った。また、地域住民の福祉・障がいへの理解を進めるとともにボランティア活動への関心を高め、ボランティアの育成、支援を行った。さらに、公的制度を重層的に補完できるよう各事業の見直しを行い、地域で支える在宅福祉サービスを展開した。

2 支出決算額

勘定科目	決算額 (円)	説明
人件費支出	6,177,185	職員人件費
事業費支出	2,567,699	地域福祉・ボランティア・在宅福祉
事務費支出	2,648,703	事務管理費
助成金支出	8,339,205	助成事業・共募配分事業
支出合計	19,732,792	

3 重点施策への取り組み

共同募金の配分金を財源に、新型コロナウイルス感染症の影響により経済的に困窮する恐れのあるひとり親世帯を対象として、お米やお菓子などを提供する生活困窮世帯支援事業を実施した。

子どもたちに福祉や障がい、ボランティアに対する理解促進を図るための福祉教育事業を、新型コロナウイルス感染拡大防止に配慮し、ソーシャルディスタンスを保持するために授業回数を増加するとともに Zoom を活用したオンライン授業を小中学校並びに障がい当事者、ボランティア団体との協働により実施した。

4 主要な施策の成果

(1) 地域福祉活動

① 地域福祉活動計画の推進

地域福祉推進委員会 1回

② 生活支援体制整備業務（市受託事業）

ア. 第1層協議体の実施 16回

イ. コーディネーター会議の開催 4回

ウ. 居場所づくり講座「大人のビタミンクラブ」の開催 全5日 延べ68人参加

エ. 第2層協議体への参加 11回

オ. 地域ケア会議への参加 10回

カ. 食の場づくり担い手育成・食育推進事業運営推進会議への参加 10回

③ ふれあい健康交流会（市受託事業）

ア. 定例実施分 5回 42人参加

イ. ボランティア協力 5団体 延べ39人参加

ウ. 情報提供（食育・健康啓発案内） 5地区2回

④ 家族介護者交流事業（市受託事業）

日程	参加者	主な内容	会場
6月30日	介護者 11人 福祉従事者 2人	骨粗しょう症予防に関する講演、 栄養士によるミニ講座	総合福祉センター
11月20日	介護者 37人 福祉従事者 7人 協力者 11人	ケアラーズ月間企画 「“認知症と家族の歩み”今、 私たちにできることを知ろう」 オンライン講演会	ベルセゾン

⑤ 詐欺被害防止電話機等購入費補助 25件 240,400円

⑥ 支え合い・助け合い活動支援事業

ア. 活動相談 29か所

イ. 活動支援 29か所

支援内容	件数	金額(円)
事務費の支給	28	140,000
保険の加入	29	459,492
会場費の支給	14	278,130
広報物の支給	—	—
備品の貸出	2	—
イベント開催費の支給	—	—
備品購入費	4	62,668

⑦ 生活困窮者自立支援金（市受託事業） 97人

⑧ フードバンク事業 204世帯 延べ416人

(2) ボランティア・市民活動センターの運営

① ボランティアに関する相談・調整・情報提供

企業1件、団体1件、個人24件

② ボランティア活動団体助成申請支援

種別	事業数	延べ団体数
助成情報案内	10	73
申請支援	3	10
助成決定数	3	10

③ ボランティア関連保険

ア. ボランティア活動保険 1,556人

イ. ボランティア行事用保険 86件

④ ボランティア体験プログラムー福祉学園ー

全29コース 延べ177人参加

⑤ ボランティア育成

ア. 手話奉仕員養成講習会入門課程（市受託事業） 14人参加

イ. 手話奉仕員養成講習会基礎課程（市受託事業） 10人参加

ウ. 点字講習会 中止

エ. 音訳ボランティア養成講座 中止

オ. 傾聴ボランティア養成講座 中止

⑥ 学校における福祉教育

ア. 福祉体験実績

小学校 7校 46件

中学校 2校 2件

イ. 朝霞地区四市福祉教育研修会 延べ102人参加

⑦ 地域福祉教育

ア. 聞こえない人の気持ちを考える講座 20人参加

イ. はじめての傾聴ボランティア 47人参加

ウ. 出前講座「ご近所同士の支え合い・助け合い」 17人参加

エ. スマートウォーカー育成講座（市主催）「地域活動の楽しみ方」 20人参加

オ. しょく（食・職）場づくり講座（市主催）「地域活動を知ろう！」 8人参加

(3) 在宅福祉事業

① たんぽぽ生活応援隊

ア. 年間活動時間 1,094時間50分

イ. 年間活動回数 873回

ウ. 利用者 231人

エ. 協力員登録者 33人

② 福祉機材（車椅子、ポータブルトイレなど）の貸出 延べ137件

③ 福祉車両利用料補助 延べ13件 112,800円

(4) 共同募金配分事業

① 地域福祉活動助成事業

助成事業名		地区数・件数	助成額（円）
地域のつながりづくり支援			
	地区敬老会支援	11地区	360,000
	世代間交流支援	9地区	290,700
	福祉施設訪問支援	—	—
	在宅高齢者訪問支援	2団体	64,800
地域活動支援		38地区	1,633,800
生活を支える活動支援			
	生活サポート活動支援	13団体	360,000
	社会参加支援	4団体	79,900
	障がい者交流支援	1団体	11,700
戦没者遺族会活動支援		1団体	150,000

その他	1 団体	42,900
ボランティア活動保険補助	836人	167,200
合 計		3,161,000

② 介護用品購入支援事業

ア. 利用者 423人

イ. 介護用品及び購入支援数

介護用品	購入支援数
食事用エプロン2枚組	58組
防水シート	169枚
すべり止めマット	51枚
口腔ケアスポンジ	21個
ポータブルトイレ防臭剤	45個
プラスチック手袋300枚	234組
手指消毒剤	177個

③ 地域でつながる子育て応援事業（カパルリュック・子育て応援本の配布）

受付場所	申請件数
いろは子育て支援センター「にこまある」	45
西原子育て支援センター「まんまある」	58
宗岡子育て支援センター「ぼけっと」	67
子育て支援センター「ぶちまある」	30
子育て支援センター「めばえ」	15
合 計	215

④ 生活困窮世帯支援事業（ひとり親世帯を対象として、お米やお菓子などを提供）

申請者（世帯）数 205世帯

サービス区分	3 生活福祉資金貸付事業に要する経費
--------	---------------------------

(地域福祉課)

1 事業の概要

埼玉県社会福祉協議会の受託事業として、低所得者、高齢者、障がい者及び離職者などの生活を経済的に支えるとともに、在宅生活の改善や社会参加の促進を図るため、資金の貸付と必要な相談支援などを行った。

2 支出決算額

勘定科目	決算額 (円)	説明
人件費支出	7,344,410	職員人件費
事務費支出	2,648,690	事務管理費
固定資産取得支出	152,900	ファイリングキャビネット
支出合計	10,146,000	

3 重点施策への取り組み

実施主体の埼玉県社会福祉協議会をはじめ、行政、ジョブスポットしき就労支援センター、志木市基幹福祉相談センターとの連携を図り、生活困窮世帯などに対する支援について、迅速かつ適切な対応に努めた。

また、新型コロナウイルスの影響による休業者及び失業者を対象とした特例貸付の相談及び申請受付窓口を令和2年度から引き続いて開設し、急激に増加する相談に対応するため、職員の増員など体制強化を図り、迅速な事務手続きを行うとともに、1,007件の相談・支援を行った。

4 主要な施策の成果

① 生活福祉資金本則貸付 (件)

新規	償還完了・償還免除	償還・据置中
4	7	112

② 生活福祉資金特例貸付 延べ1,007件 (件)

緊急小口資金	総合支援資金 (初回・延長)	総合支援資金 (再貸付)
295	306	406

サービス区分	4 相談支援事業に要する経費
--------	----------------

(障がい福祉課)

1 事業の概要

福祉総合相談を基本に、相談者の課題解決に向けての福祉サービスや社会資源などの情報提供や調整などに取り組んだ。

市からの委託により、障がい者やその家族が抱える福祉課題の相談に応じ、情報提供や助言、障がい福祉サービスの利用支援など必要な支援を行った。

2 支出決算額

勘定科目	決算額 (円)	説明
人件費支出	14,715,315	職員人件費
事務費支出	2,646,161	事務管理費
支出合計	17,361,476	

3 重点施策への取り組み

経済不安や権利擁護など、多問題を抱える世帯の支援のため、福祉・教育・医療などのさまざまな関係機関と連携を図り、総合的な支援を行った。また、市民からの相談に対しそれぞれの役割を十分に果たせるよう、志木市基幹福祉相談センターと連携を取りながら支援を行った。その他、自立支援協議会や相談支援事業所連絡会に参加し、市の障がい福祉サービスの現状を把握しつつ、困難事例を担当する相談支援専門員へのサポートとして、助言や同行を行った。

4 主要な施策の成果

(1) 相談支援事業

サービスを利用していない家庭に閉じこもりがちな障がい者に地域活動支援センターが運営するサロンなどを紹介した。

障がい者や障がい児、難病のある人などが必要な障がい福祉サービスを受けられるよう、サービス等利用計画を作成した。

① 福祉総合相談件数 6件 (件)

電話	来所	訪問	同行	関係調整	その他
4	—	—	—	2	—

② 障がい者等相談支援事業所 2,567件

ア. 相談件数 (件)

電話	来所	訪問	同行	関係機関	個別会議	メール他
1,006	81	163	36	1,102	147	32

イ. 障がい別相談件数 (複数相談あり) (件)

身体	知的	精神	発達	高次脳機能	難病	その他
383	526	1,685	115	94	7	12

③ 計画相談支援 120件

ア. 契約件数 (件)

新規契約	契約終了	延べ契約
17	7	120

イ. 障がい別契約件数 (件)

身体障がい	知的障がい	精神障がい	重複障がい
22	61	21	16

④ 認定調査 年12回 77件

(2) 会議・研修

- ① 会議・研修 13件 23人参加
- ② 地区民生委員・児童委員協議会会議 8回
- ③ 自立支援協議会 4回
- ④ 連絡調整会議 12回

サービス区分	5 法人後見事業に要する経費
---------------	-----------------------

(障がい福祉課)

1 事業の概要

判断能力が十分でない高齢者、知的・精神障がい者などが安心して生活できるよう、法人として成年後見人などを受任した。また、判断能力が低下し、一人で生活していくことに不安がある人に、福祉サービス契約の代行・代理、郵便物の整理・確認、日常的な金銭管理、重要書類の管理などにより生活を支援する福祉サービス利用援助事業を実施した。

2 支出決算額

勘定科目	決算額 (円)	説明
人件費支出	9,497,710	職員人件費
事業費支出	672,458	諸謝金、通信運搬費等
事務費支出	720,614	事務管理費
繰入金支出	1,974,704	法人運営へ
支出合計	12,865,486	

3 重点施策への取り組み

権利擁護が必要な人に志木市基幹福祉相談センターや地域包括支援センター、生活保護ケースワーカーなどと連携を図りながら、制度の利用について情報発信を行った。

また、本人や高齢の親族等が制度を理解できないために精神科病院へ長期的に入院しているケースにおいて、成年後見制度を利用することで住み慣れた地域での生活につなげるため、法人後見事業において受任を検討し、3人の後見人・保佐人に選任を受けた。

4 主要な施策の成果

(1) 日常生活自立支援事業

① 実施体制

専門員3人（常勤兼務2人、短時間勤務職員1人）、生活支援員9人

② 相談

相談日・時間	相談員	件数
月～金曜日 8時30分～17時15分	常勤職員	621

③ 利用状況

ア. 契約件数 14件（新規10件、契約終了3件）

イ. 分野別契約件数 (件)

高齢者	知的障がい	精神障がい	その他
9	1	4	0

④ 普及・啓発

権利擁護について理解が得られるよう会議などの場に積極的に出向いたことから新規相談が約3割増加した。

(2) 法人後見事業

① 権利擁護推進事業運営委員会 2回 延べ16人出席

② 権利擁護支援員会議 2回 14人出席

③ 利用状況

ア. 保佐人 5件 (件)

新規受任	受任終了	受任件数	内訳
3	—	5	90代女性1人、70代男性1人、 70代女性1人、60代男性1人、 50代女性1人

イ. 後見人 13件 (件)

新規受任	受任終了	受任件数	内訳
3	—	13	90代女性1人、80代女性1人、 70代女性2人、50代男性3人、 50代女性1人、40代男性2人、 40代女性2人、30代男性1人

ウ. 後見監督人 2件 (件)

新規受任	受任終了	受任件数
—	1	2

④ 相談・対応件数 790件 (件)

身上保護・財産管理	674
職員訪問	59
権利擁護支援員訪問	57

(3) 会議・研修

① 専門員会議・研修 6回 9人参加

② 志木市成年後見制度利用促進調整会議・企画運営会議 6回 6人参加

③ その他会議・研修 3件 3人参加

サービス区分	6 地域活動支援センターに要する経費
---------------	---------------------------

(障がい福祉課)

1 事業の概要

障がい者の意思と人格を尊重し、利用者の立場や視点に立った障がい福祉サービスを提供するため、障がい者の声をもとにした創造的活動または生産活動の機会の提供及び社会との交流を図る事業を実施した。

2 支出決算額

勘定科目	決算額 (円)	説明
人件費支出	4,343,952	職員人件費
事業費支出	3,336,726	機能回復訓練、教室事業
事務費支出	1,727,582	事務管理費
支出合計	9,408,260	

3 重点施策への取り組み

料理教室は、調理したものを食中毒にも気を付けながら持ち帰り、パステルアート教室は、2部に分けて人数を制限するなど、感染症対策を講じながら教室事業を実施した。

また、機能回復訓練事業は、参加者の身体能力が低下することのないよう、緊急事態宣言下においても休むことなく実施した。

さらに、それぞれの障がいに応じてサポートをするサークルとして、ロールピアノの演奏を通じて、参加者同士の交流と脳のトレーニングを行う「ぴあの」、精神障がい者をはじめとするさまざまな障がいのある方が落ち着ける居場所を提供する「ぬりえ」「りらくすルーム」を新たに立ち上げた。

4 主要な施策の成果

(1) 地域活動支援センターの管理運営

- ① 地域活動支援センター運営委員会 1回 10人出席
- ② 障がい者団体及びボランティア団体への活動場所の提供
6団体 181回 延べ1,082人
- ③ 職員研修 3回 3人参加

(2) 自主事業及び受託事業の実施

① 教室事業（創作活動）

教室名	回数	参加者数
生花教室	11	57
陶芸教室	12	99
料理教室	10	112
体操教室	12	78
おとこの木あそび	12	85

パステルアート教室	12	52
写真教室	4	35
7教室	73	518

② サークル活動

教室名	回数	参加者数
ペンギンクラブ	20	148
PCC 六星	22	82
ぴあの	21	131
ぬりえ	21	35
りらくすルーム	9	14
5サークル	93	410

③ 親と子の生活訓練（介護の指導方法）

10回 延べ59人

④ 青年学級（社会適応訓練）

2回 延べ38人

⑤ 機能回復訓練事業

曜日	回数	参加者数
月曜日	48	265
金曜日	48	225
週2回	96	490

⑥ 送迎サービス 61回 延べ92人

教室名	回数	参加者数
生花教室	11	20
陶芸教室	12	12
料理教室	10	11
体操教室	12	37
おとこの木あそび	12	7
写真教室	4	5
6教室	61	92

サービス区分	7 志木市児童センターに要する経費
--------	-------------------

(こども未来課)

1 事業の概要

児童に健全な遊びを提供して、その健康を増進し、情操を豊かにする児童福祉法に基づく目的を達成するため、各種事業を実施するとともに、施設の適切な維持管理に努め、利用者が安心して安全に利用できる施設運営を行った。(指定管理者)

2 支出決算額

勘定科目	決算額 (円)	説明
人件費支出	21,514,684	職員人件費
事業費支出	198,406	自主事業
事務費支出	2,069,660	建物管理費
支出合計	23,782,750	

3 重点施策への取り組み

「クリスマススペシャルウィーク」や「クラフトウィーク」など特別感のある工作（プラバン、アイロンビーズ、スライム作りなど）が体験できる機会を提供し、遊びの充実を図った。また、地域の方が遊びを指導する「エールおとどけ隊」を企画し、遊びの発展及び地域との交流を促進した。さらに、センターに関する情報を即時的に発信するため、公式LINEを開設し、情報提供を行った。

4 主要な施策の成果

(1) 利用状況

開館日数 354日

(人)

個人利用者	団体利用者※	その他利用者	合計
11,404	141	94	11,639

※施設が共有のため宗岡子育て支援センターの事業参加者を団体利用者とした。

(2) 事業実施状況

事業参加者 8,128人

① 未就学児・保護者対象事業

主な内容	事業数	参加人数
なかよしランド、みんなであそぼ、児セビクスなど	5	1,658

② 小学生以上対象事業

主な内容	事業数	参加人数
めざせクイズ王、コマ・けん玉検定、わくわくタイムなど	21	6,408

③ 地域育成事業

主な内容	事業数	参加人数
えいが会、エールおとどけ隊	2	62

(3) 児童センター運営委員会

1回 9人出席

(4) モニタリング調査

利用者のニーズを把握し、事業運営に生かした。 回答者数 100人

(5) 感染症対策

入館時の手洗い、検温、3歳以上のマスク着用、連絡先情報の確認を徹底した。また、利用人数及び時間を制限し、未就学児の親子は事前予約制としたほか、市内在住の個人のみを受け入れた。さらに、玩具は使用ごとに消毒を実施し、定期的な換気を行った。事業は規模の縮小などをして実施した。

(6) 緊急時対策

① 職員訓練（地震や火災を想定した災害時の保護者への連絡、ケガの場合の救急車による病院搬送など、その場に応じた適切な緊急時対応訓練）

毎月1回 12回実施

② ミニミニ避難訓練（利用者とともに、地震や火災、不審者侵入を想定）

4回実施 延べ20人

(7) 職員研修

① 外部研修 8件 延べ17人参加

② 内部研修 2件 延べ15人参加

サービス区分	8 宗岡子育て支援センターに要する経費
---------------	----------------------------

(こども未来課)

1 事業の概要

子育て家庭の保護者、乳幼児などに対する支援を行うため、子育て親子の交流の場の提供と交流促進を中心とした事業を展開するほか、子育てに関する相談・援助を実施し、児童福祉法に基づく子育て支援の拠点として、利用者が安心して安全に利用できる施設運営を行った。(指定管理者)

2 支出決算額

勘定科目	決算額 (円)	説明
人件費支出	9,886,444	職員人件費
事業費支出	201,125	自主事業
事務費支出	1,871,276	事務管理費
繰入金支出	409,905	法人運営へ
支出合計	12,368,750	

3 重点施策への取り組み

コロナ禍でストレスを抱える保護者の育児負担を軽減するため、来館に不安を抱える保護者(親子)を対象に、一部の専門相談に Zoom を導入した。また、子ども向け動画を定期的に配信するとともに、Zoom を使用したオンライン広場を実施した。さらに、センターに関する情報を即時的に発信するため、公式 LINE を開設し、情報提供を行った。

4 主要な施策の成果

(1) 利用状況

開館日数 354日

(人)

あそびの広場		子育て支援事業・ 相談事業など	合 計
子ども	保護者		
3,051	2,512	4,219	9,782

(2) 事業実施状況

① あそびの広場

主な内容	回数	人数
自由遊びや交流の場の提供(対面)	308	5,547
手あそび、歌あそび等の配信(オンライン)	3	16

② 子育て親子交流事業

主な内容	事業数	人数
身体測定、対象別広場、誕生日手形など	7	1,563

③ 子育て支援事業

主な内容	事業数	人数
親子講座、児セビクス、子育てサークル支援など	11	2,045

④ 相談事業

ア. 子育て相談 227件 (件)

	睡眠	食事	排泄	発育	発達障がい	育児一般	ストレス虐待	保健	家庭地域	合計
児童	12	20	16	2	20	101	1	13	22	207
大人	1	—	—	—	—	2	5	2	10	20

イ. 専門相談 32回 112件

事業名	回数	相談件数	事業名	回数	相談件数
小児科医師相談	6	17	出張健康相談	2	26
まんま相談	11	20	栄養相談	2	11
おっぱい相談	6	25	巡回発達相談	3	3
歯の健康相談	2	10			

⑤ 地域育成事業 3事業 64人

⑥ 見学者及び赤ちゃんの駅利用者など 208人

(3) モニタリング調査

利用者のニーズを把握し、事業運営に活かした。 回答者数80人

(4) 感染症対策

入館時の手洗い、検温、3歳以上のマスク着用、連絡先情報の確認を徹底した。また、利用人数及び時間を制限し、事前予約制としたほか、市内在住の個人のみを受け入れた。さらに、玩具は使用ごとに消毒を実施し、定期的な換気を行った。

事業は規模の縮小などをして実施した。

(5) 緊急時対策

① 職員訓練（地震や火災を想定した保護者への連絡、ケガの場合の救急車による病院搬送など、その場に応じた適切な緊急時対応訓練）

毎月1回 12回実施

② ミニミニ避難訓練（利用者とともに、地震や火災、不審者侵入を想定）

4回実施 延べ20人

(6) 職員研修

① 外部研修 7件 延べ11人参加

② 内部研修 2件 延べ8人参加

サービス区分	9 放課後子ども教室・学童保育クラブに要する経費
---------------	---------------------------------

(こども未来課)

1 事業の概要

宗岡地区4小学校の全児童を対象に、安心・安全に過ごすことができる放課後の居場所として、学校内や学童保育専用施設で学習を支援したほか、遊び、スポーツ、文化活動などを体験し、交流をする「放課後志木っ子タイム事業（全児童を対象とする「放課後子ども教室」と就労家庭などの児童を対象とする「学童保育クラブ」を一体的に運営する事業）」を実施した。

2 支出決算額

勘定科目	決算額 (円)	説明
人件費支出	97,449,684	職員人件費
事業費支出	14,447,640	自主事業
事務費支出	17,347,046	事務管理費
支出合計	129,244,370	

3 重点施策への取り組み

- (1) 学習につまずきやすい3・4年生（希望者）を対象にした放課後学習教室を令和3年度から開始した。教員経験を有する講師による指導と学習サポーターの補助により、ICT教材（タブレット端末）を使用して、自主学習に意欲的に取り組むことができた。
- (2) コロナ禍における体験プログラムはWEB申込みに変更して行い、保護者から好評を得ている。児童の入退室通知および情報配信は保護者専用アプリで行えるものに変更し、保護者の安心と児童の安全につなげた。
- (3) 運営委員会で提起されたアイデア、プログラム講師の意見を積極的に取り入れて、4施設でオンライン交流会を行うなど、新たなプログラムの開発に努め、実施した。

4 主要な施策の成果

- (1) 放課後子ども教室と学童保育クラブの開室・開所状況

- ① 放課後子ども教室は、年間を通して一部利用制限を設けた開室となった。
- ② 学童保育クラブ家庭保育協力要請期間

4月28日～5月11日	まん延防止等重点措置
8月20日～9月30日	緊急事態宣言発出
1月24日～3月31日	まん延防止等重点措置

- (2) 利用状況

施設名	放課後子ども教室		学童保育クラブ	
	開室日数	利用人数	開所日数	利用人数
むねおか	244	5,060	295	5,580
むねに	244	4,713	295	3,456

むねさん	2 4 4	4, 1 8 7	2 9 5	5, 5 8 2
むねよん	2 4 4	7, 5 4 7	2 9 5	8, 3 9 2
合 計		2 1, 5 0 7		2 3, 0 1 0

(3) 自主事業など

① 放課後子ども教室体験プログラム

主な内容	回数	人数
プログラム講師による体験活動の提供	8 0	2, 4 2 4

② 放課後学習教室および学習支援

主な内容	回数	人数
意欲的な自主学習の促進	1 5 5	4, 3 5 2

③ 新規開催プログラム

主な内容	回数	人数
Zoom を活用した 4 施設の交流会	2	3 0

④ 保護者説明会

主な内容	回数	人数
令和 4 年度学童保育クラブ入所説明会・面接 (動画視聴による説明)	1	1 0 3

夏休み説明会は、資料配布

⑤ 運営委員会

方法	施設名	回数	人数
対面開催	むねおか むねに むねよん※	3	1 5

※むねさんは書面開催 (資料配布)

(4) 感染症対策

手洗い、消毒、検温、マスク着用、喫食時の黙食などを徹底した。放課後子ども教室は利用制限および利用自粛要請を行い、学童保育クラブは家庭保育協力を依頼した。

(5) 緊急時対策

感染症対策を徹底しながら、防災・防犯訓練を学期ごとに実施した。また、施設備え付けの AED で定期的にシミュレーションを行った。

(6) 職員研修

- ① 認定資格研修 1 件 2 人参加
- ② 外部研修 9 件 延べ 1 1 6 人参加
- ③ 内部研修 1 件 1 3 人参加
- ④ 学童保育アドバイザーによる勉強会 1 件 1 3 人参加
- ⑤ 宗岡地区小学校福祉体験授業参加
アイマスク体験 4 校 1 3 人参加
車いす体験 4 校 1 2 人参加

サービス区分	10 居宅介護支援事業に要する経費
---------------	--------------------------

(長寿えがお課)

1 事業の概要

介護保険制度における指定居宅介護支援事業所として、高齢者が住み慣れた地域で暮らしていくために、要支援や要介護認定を受けた人のケアプランを作成し、関係各所との連携強化を図りながら、利用者の自立した在宅生活を支援した。

2 支出決算額

勘定科目	決算額 (円)	説明
人件費支出	27,580,276	職員人件費
事務費支出	3,520,379	事務管理費
ファイナンス・リース債務支出	747,144	介護保険システム
繰入金支出	433,489	法人運営へ
支出合計	32,281,288	

3 重点施策への取り組み

コロナ禍での対応として近隣サービス事業所・医療機関と連携を図り、ADL・QOLの維持向上のため迅速にプランの変更を行った。

医療機関や地域包括支援センターからの看取りケース、困難ケースを積極的に受け入れ、地域課題の把握に努めるとともに、事業所内での情報共有と課題解決のための検討を重ね、事業所全体としての対応力の向上を図った。

また、今後義務化となる災害と感染についてのBCP（業務継続計画）作成や、高齢者虐待防止への取り組みについて、策定方法を学び今後の整備に向けて情報収集や現状の確認を行った。

4 主要な施策の成果

(1) 居宅介護支援

① 職員体制（令和4年3月末）

介護支援専門員	人数
常勤職員	5
短時間勤務職員	1

② ケアプラン数

種別	延べ作成件数
介護計画	1,765
介護予防計画	395

③ サービス担当者会議 258回

主な会議内容	回数
認定更新結果後のサービス	77
現在のサービス見直し	57

初回サービス担当者会議（新規利用者）	107
退院後の在宅復帰	10
区分変更後のサービス調整	7

④ 介護予防サービス担当者会議 37回

主な会議内容	回数
認定更新結果後のサービス	18
初回サービス担当者会議（新規）	10
現在のサービス見直し（変更・追加）	7
その他	2

⑤ 相談件数 103件（うちケアプラン作成件数78件）

(2) 認定調査

43件（志木市35件、他市8件）

(3) 会議・研修

① 外部研修（更新研修、認定調査研修等）	37件	延べ41人参加
② 地域ケアエリア会議	2回	3人参加
③ 自立支援型地域ケア会議	1回	1人参加
④ ケアマネジャー会議	全12回	延べ61人出席
⑤ 志木ケアマネスクエア	全5回	延べ10人参加
⑥ 事例検討会	全6回	延べ14人参加
⑦ 内部研修	全3回	延べ8人参加

サービス区分 11 訪問介護事業に要する経費

(長寿えがお課)

1 事業の概要

指定訪問介護事業、指定居宅サービス事業及び市からの委託事業として、移動支援事業・育児サポート事業などさまざまな制度に基づき、訪問介護員が居宅を訪問し、身体介助や家事援助などのサービスを提供することにより、住み慣れた地域で安心して暮らすことができるよう、在宅生活を支援した。

2 支出決算額

勘定科目	決算額 (円)	説明
人件費支出	69,967,792	職員人件費
事務費支出	4,745,377	事務管理費
ファイナンス・リース債務支出	747,144	介護保険システム
繰入金支出	7,226,975	法人運営へ
支出合計	82,687,288	

3 重点施策への取り組み

感染拡大によりサービス停止にならないよう感染症対策を講じ、登録ヘルパーが濃厚接触者となった場合にも、サービス提供責任者及び他の登録ヘルパーが交代してサービスを継続した。

専門的な知識、技術を必要とするケースへの対応として、サービス提供責任者が定期的に登録ヘルパーを指導し、適切なサービス提供につなげた。

障がい者虐待防止法に基づき、法人内で虐待防止委員会を設置し虐待防止のための研修を実施した。

4 主要な施策の成果

(1) 訪問介護

① 職員体制 (令和4年3月末)

職員種別	人数
サービス提供責任者 (常勤)	4
サービス提供責任者 (短時間)	2
事務職 (短時間)	1
登録ヘルパー	36

② 活動時間、利用者数

区分	活動時間 (時間)	訪問回数	延べ利用者数
訪問介護	10,701	11,265	1,153
第1号訪問事業	3,231	3,813	711
居宅サービス事業	5,953	5,135	547

移動支援事業	911	1,167	168
育児サポート事業	26	25	4
自費契約	2	2	2
合計	20,824	21,407	2,585

(2) 研修・会議

感染症の影響により中止していたケース検討会を再開し、情報共有を行った。

- ① 登録ヘルパー全体研修 年7回 延べ294人出席
- ② ヘルパー地区会議 5地区 各2回 延べ81人出席
- ③ 新任研修（1年未満の新任対象） 1回
- ④ 外部研修（WEB研修） 10回 延べ51人参加
- ⑤ サービス提供責任者会議 12回 延べ84人出席
- ⑥ ケース検討会 11回
- ⑦ 地域ケアエリア会議 3回 延べ3人出席

(3) サービス担当者会議 199回

主な会議内容	回数
身体及び生活環境の変化による業務の見直しと今後の対応について	36
要介護認定更新に伴うサービス内容の確認について	74
生活状況及びサービス内容の確認について	22
退院後の在宅復帰に向けて	7
新規訪問でのサービス提供内容について	56
その他(ケアマネジャー交代等)	4

(4) 講師派遣

宗岡中学校「立ち上がり介助、歩行介助の実践」サービス提供責任者2人派遣

サービス区分 12 志木市福祉センターに要する経費

(地域福祉課)

1 事業の概要

高齢者が健康で明るい生活を送ることができるよう、高齢者の介護予防の推進、教養の向上及びレクリエーションの実施など、各種教室や介護予防事業を実施するとともに安心して利用できる施設運営を行った。また、志木市老人クラブ連合会の事務局として老人クラブ活動の支援を行った。(指定管理者)

2 支出決算額

勘定科目	決算額 (円)	説明
人件費支出	10,027,558	職員人件費
事業費支出	2,128,082	自主事業
事務費支出	5,099,960	事務管理費
支出合計	17,255,600	

3 重点施策への取り組み

教室事業及び介護予防事業は、高齢者の身体機能の低下や社会的孤立を防止するため市内公共施設の利用基準を慎重に検討した上で、講師などと調整し、会場を広い部屋に変更する、2部制にするなどの工夫に併せて、感染症対策を徹底しながら実施した。また、総合福祉センター活動発表会に参加し、老人クラブや教室事業の作品展示会を福祉センター2階ロビーにて実施した。

4 主要な施策の成果

(1) 利用状況

開館日数 354日 (人)

市内利用者	市外利用者	合計
11,654	102	11,756

<臨時休館>

- ① 6月27日 (総合福祉センター非常用発電機交換工事のため)
- ② 7月11日、8月29日、10月31日、2月13日の4日間 (電気点検、館内清掃のため)

(2) 教室事業

教室名	回数	参加者数	実施期間
大人のぬり絵教室	11	169	4月～3月
健康体操教室	10	192	5月～3月
健康レクリエーションダンス教室	10	195	5月～3月
3B体操教室	10	221	5月～3月
書道教室	10	281	5月～3月
太極拳教室	10	185	5月～3月

フォークダンス教室	10	153	5月～3月
民謡教室	10	176	5月～3月
8教室	81	1,572	(8月休み)

(3) 介護予防事業

事業名	回数	参加者数	実施期間
朝の5分間体操	毎日	—	随時
エンジョイ筋トレ	月1回	88	4月～3月
お気軽ころばん塾	週3回	1,264	4月～3月
カッピー体操	週1回	532	4月～3月
スマイル体操	週1回	461	4月～3月
健康講座	奇数月1回	74	5,7,9,11,1,3月
脳体操(脳活性化ゲーム)	10回	90	5月～9月、11月～3月
楽々筋トレ塾	毎日	500	4月～3月
輪投げ・マグダーツ練習会	週1回	144	4月～3月
リフレッシュ椅子ヨガ	月1回	59	10月～3月
麻雀	毎日	988	11月～3月
リズム体操	全1回	11	2月
わくわくアート	全2回	20	3月
13事業		4,231	

(休止した事業：歌声サロン、懐メロ合唱会、声から始める健康生活、音楽療法等)

(4) イベント事業

総合福祉センター活動発表会に参加し、作品展示会を福祉センター2階ロビーにて実施した。なお、高齢者まつり(彩愛まつり芸能大会)、多世代交流事業は、中止した。

(5) 感染症対策

日常的な感染症対策としては、入館前の検温、バーコード利用券による入退館記録、マスク着用、手指のアルコール消毒、飲食禁止、接触機会軽減など利用者の協力をお願いし、各部屋の定員制限、加湿機付空気清浄機及び扇風機の設置、定期的な換気と人の触れる機会の多い場所の消毒、利用後の部屋や備品の消毒を毎日実施した。

(6) 志木市老人クラブ連合会事務局活動

志木市老人クラブ連合会事務局及び各単位老人クラブに関する事務を実施し、日常活動や事業の連絡調整、準備、決算、記録などの諸活動の支援を行った。

事業は、友愛訪問以外の多くが中止となってしまった一方で、役員の交替なども多く見られたため、総会資料作成に関する会計研修を3月11日に実施した。

(7) 防火管理

総合福祉センター危機管理マニュアルに基づき、総合福祉センター内の各施設と連携し、館内のすべての機関が参加する消防訓練に年2回参加した。

サービス区分	13 志木市第二福祉センターに要する経費
---------------	-----------------------------

(地域福祉課)

1 事業の概要

高齢者が健康で明るい生活を送ることができるよう、高齢者の介護予防の推進、教養の向上及びレクリエーションの実施など、各種教室や介護予防事業を実施するとともに安心して利用できる施設運営を行った。また、隣接する市営城山住宅に居住するひとり暮らし高齢者の定期的な安否確認を行った。(指定管理者)

2 支出決算額

勘定科目	決算額(円)	説明
人件費支出	12,571,314	職員人件費
事業費支出	1,589,700	自主事業
事務費支出	15,908,066	事務管理費
支出合計	30,069,080	

3 重点施策への取り組み

教室事業及び介護予防事業は、高齢者の身体機能の低下や社会的孤立を防止するため市内公共施設の利用基準を慎重に検討したうえで、講師などと調整し、会場を広い部屋に変更する、2部制にするなどの工夫に併せて、感染症対策を徹底しながら実施した。また、浴室施設を安心して利用いただくため、事前予約制により浴室に入ることができる人数を制限して運営を行った。

4 主要な施策の成果

(1) 利用状況

開館日数 356日 (人)

市内利用者	市外利用者	合計
21,933	110	22,043

<臨時休館>

6月13日、12月12日、2月13日の3日間(定期清掃のため)

(2) 浴室利用 ※予約制 1日44人以内(男性5人×4回 女性6人×4回)

利用日数 290日 (人)

男性	女性	合計
5,425	6,674	12,099

(3) 教室事業

教室名	回数(回)	参加者数(人)	実施期間
大人のぬり絵教室	10	87	5月～3月
健康体操教室	10	191	5月～3月

3 B 体操教室	1 0	1 1 1	5月～3月
シニアダンス教室	1 0	1 3 9	5月～3月
書道教室	1 0	1 3 6	5月～3月
太極拳教室	1 0	8 9	5月～3月
認知症予防ゲーム教室	1 0	1 4 2	5月～3月
リズム体操教室	1 0	1 2 3	5月～3月
8 教室	8 0	1, 0 1 8	(8月休み)

(4) 介護予防事業

事業名	回数	参加者数(人)	実施期間
朝の5分間体操	毎日	—	随時
エンジョイ筋トレ	月1回	7 1	5月～3月
お気軽ころばん塾	週3回	9 4 3	4月～3月
カッピー体操	週1回	3 8 5	4月～3月
楽々筋トレ塾（初回講習を含む）	毎日	5 6 9	4月～3月
5 事業		1, 9 6 8	

(休止した事業：カーレット練習会、リフレッシュ体操、歌声ひろば、声から始める健康生活、音楽療法、介護予防セミナー)

(5) イベント事業

サークル発表会、カーレット大会、パフォーマンスなどは中止した。

(6) 感染症対策

日常的な感染症対策としては、検温と消毒を同時にできる非接触型の機材を受付に設置して入館時の混雑を回避し、バーコード利用券による入退館記録、マスク着用、飲食禁止、接触機会軽減など利用者の協力をお願いし、各部屋の定員制限、加湿機付空気清浄機及び扇風機の設置、定期的な換気と人の触れる機会の多い場所の消毒、利用後の部屋や備品の消毒を毎日実施した。

(7) 隣接住宅の見守り安全確認

隣接する市営城山住宅に居住するひとり暮らしの高齢者に対し、定期的な安否確認を実施した。

(8) 防火管理

安心して施設を利用していただくため、消防訓練を年2回実施した。また、避難所開設・運営訓練を実施し、福祉避難所の運営を円滑に行うための確認を行った。

(9) 研修

外部研修 1件 1人参加
内部研修 4件 8人参加

サービス区分 14 障がい者通所施設（生活介護）に要する経費

(障がい福祉課)

1 事業の概要

障害者総合支援法に基づき、利用者が自立した日常生活または社会生活を営むことができるよう、利用者の意向、適性、障がいの特性その他事情を踏まえた個別支援計画を作成し、利用者に障がい福祉サービスを実施した。

2 支出決算額

勘定科目	決算額 (円)	説明
人件費支出	26,781,077	職員人件費
事業費支出	293,891	自主事業
事務費支出	4,495,810	事務管理費
就労支援支出	178,037	利用者工賃、材料費
事業税支出	36,000	作業収入に関わる消費税
支出合計	31,784,815	

3 重点施策への取り組み

職員の指導によるリハビリ体操やレクリエーションを行い、身体を動かす機会を継続し、また、余暇の時間に館外散歩を取り入れるなどして、運動不足を防ぐ支援を行った。

内職作業においては、コロナ禍の影響を受け資材の取扱いがなくなることもあったが、自主製作品の作業を調整し、継続した作業提供を行った。

また、地域交流の一環として実施しているアルミ缶回収については、ビニール袋を二重にする等の感染症対策を講じながら実施した。地域の方々の協力やアルミ価格の高騰を受け、販売活動が厳しい状況の中で利用者工賃の大きな財源となった。

4 主要な施策の成果

(1) 新規契約者数

- ① 新規契約 2人 (10代男性、40代女性)
- ② 契約終了 3人 (40代男性2人、40代女性→グループホームへ入所)

(2) 利用登録者数 (3月31日現在) 平均利用者数 16.7人/日

	利用登録者数	延べ利用人数
つくしんぼ	22	4,030

(3) 平均工賃 (一人あたり)

	月額(円)	活動内容
つくしんぼ	2,119	自主製品販売、アルミ缶回収、内職作業

(4) つくしんぼの活動

① 販売活動 コロナ禍のため実施無し

② 健診と余暇活動など

	活動内容	回数
健診	内科検診	12
	歯科検診	1
余暇活動など	大正琴	23
	音楽療法	6
	市内他団体との食事会	1
	外出行事	—
	スポーツ・レクリエーション	25
	絵画教室	12
	リハビリ体操	26

(5) 関連業務

① 実習体験生の受け入れ

所属など	人数	日数
通所希望者	1	1
所沢おおぞら特別支援学校	1	5

② 避難訓練

避難確保計画に基づく垂直避難訓練 1回 17人参加 職員5人

総合福祉センター実施避難訓練 2回 延べ2人参加

③ 会議・研修等

ア. 外部研修 3件 3人参加

イ. 内部研修 2回 11人参加

ウ. 職員会議 12回

サービス区分	15 障がい者通所施設（就労継続支援B型）に要する経費
---------------	------------------------------------

(障がい福祉課)

1 事業の概要

障害者総合支援法に基づき、利用者が自立した日常生活または社会生活を営むことができるよう、また、継続的な就労活動ができるよう、利用者の意向、適性、障がいの特性、その他事情を踏まえた個別支援計画を作成し、利用者に障がい福祉サービスを実施した。

2 支出決算額

勘定科目	決算額 (円)	説明
人件費支出	33,290,272	職員人件費
事業費支出	984,844	自主事業
事務費支出	3,840,489	事務管理費
就労支援支出	10,890,567	利用者工賃、材料費
事業税支出	903,000	作業収入に関わる消費税
固定資産取得支出	206,800	ガスオープン
支出合計	50,115,972	

3 重点施策への取り組み

コロナ禍が続く中、感染症対策を徹底し、クローバーにおいては1日通所を7月に再開させるなど、利用者への就労訓練の機会を継続して提供することができた。また、各部門で新たな作業へ挑戦し、就労継続支援B型全体で請け負う仕事も増え、幅広い仕事の種類を選択し、訓練を受けられる体制を作ることができた。

その結果、就労支援事業収入を昨年度に比べ約193万円アップ、支払い延べ利用者数も40人増え、より多くの利用者へ就労の機会を提供することができた。さらに、利用者1人を一般就労へつなげることができた。

4 主要な施策の成果

(1) 新規契約・契約終了者数

- ① 新規契約 6人（10代男性2人、20代女性1人、50代女性3人）
- ② 契約終了 3人（40代男性→一般就労へ、10代男性、40代女性→生活介護へ）

(2) 利用登録者数（3月31日現在） 平均利用者数 25.2人/日

	利用登録者数	延べ利用者数
クローバー	19	3,876
ひまわり	9	953
東館	10	1,251

(3) 平均工賃（一人あたり）

	月額(円)	活動内容
クローバー	13,622	清掃及び除草、御香炉灰、缶バッチ製造など
ひまわり	23,378	食堂運営
東館	11,154	焼き菓子製造、学童おやつ提供
平均工賃	15,058	

(4) クローバーの活動

クローバーは灰作業や封入作業、缶バッチ製造等の内職作業と、公園や施設トイレ等の清掃作業を行っている。令和3年度は新たに、通所人数の多さと訓練された手先の細かい作業を活かすため、他部門の商品箱詰めや梱包作業等を担い、就労継続支援B型全体の収入アップに向けて貢献した。また、地域活動の一環として市のクリーンボランティアに登録し、清掃ボランティアを行った。

① 就労支援活動

	就労場所	活動内容	延べ活動者数
施設外	公園清掃	清掃及び除草	239
施設内作業		御香炉灰など	3,876
		缶バッチ製造	69

② 余暇活動 1回(クリスマス会)

(5) ひまわり・東館の就労支援活動

食堂を運営するひまわりでは、コロナ禍であっても売り上げの減少を抑えるために、持ち帰り商品の拡充を図り、売上だけでなく弁当のおかず作りや詰める作業等、新たな業務を増やし、利用者の訓練にあたった。また、志木市プレミアム商品券等の取り扱い加盟店への登録、埼玉県が実施する『彩の国「新しい生活様式」安心宣言飲食店+認証制度』を取得し、お客様への利便性と安心を図り集客を募った。

東館では、新商品を開発するとともに市内高齢者施設への定期受注販売先を開拓し、また、埼玉県が実施したオンラインでの「彩の国セルプまつり」に参加し、新たな客層の獲得、売上アップを行うことができた。

主な活動内容	活動日数	延べ利用者数	売り上げ(円)
食堂運営	236	9,002	5,039,670
学童おやつ提供	147	21,972	2,646,110
クッキー等焼き菓子製造	242	—	1,571,067

(6) 関連業務

① 実習体験生の受け入れ

所属など	クローバー		ひまわり		東館	
	人数	日数	人数	日数	人数	日数
通所希望者	3	6	3	5	4	5
所沢おおぞら特別支援学校	2	7	—	—	4	16

埼玉大学附属特別支援学校	1	2	—	—	1	3
入間わかくさ特別支援学校	1	1	—	—	—	—

② 避難訓練

避難確保計画に基づく避難訓練(9月10日実施)

回数	クローバー	ひまわり	東館	就労B職員
1回	13人	2人	3人	8人

総合福祉センター実施避難訓練

回数	クローバー	ひまわり	東館
2回	26人	4人	3人

③ 会議・研修等

分類	クローバー		ひまわり		東館	
外部研修	3件	3人	1件	2人	3件	3人
内部研修	1件	1人	2件	6人	2件	7人
職員会議	12回	—	12回	—	12回	—

サービス区分 16 地域包括支援センターに要する経費

(長寿えがお課)

1 事業の概要

柏町及び館・幸町地区の高齢者が住み慣れた地域で安心して生活が続けられるように、相談を受け、高齢者を見守り、心身の状態に併せた支援を行った。また、「地域包括ケア」の中核機関として、必要な総合相談支援、権利擁護、包括的・継続的ケアマネジメント支援、介護予防ケアマネジメントなどを市からの委託を受けて実施した。

2 支出決算額

勘定科目	決算額 (円)	説明
人件費支出	67,992,891	職員人件費
事業費支出	3,752,819	市受託事業、自主事業
事務費支出	6,752,740	事務管理費
繰入金支出	6,444,993	法人運営へ
支出合計	84,943,443	

【志木市高齢者あんしん相談センター柏の杜】

3 重点施策への取り組み

コロナ禍で中止していた集合形式の事業を再開するとともに、個別支援についても感染症対策を行いながら実施した。

生活支援体制整備事業については、柏町内の再発見と介護予防を目的として「わくわくウォークラリー第3弾」を実施し、高齢者や小学生など多世代が参加できる事業を企画した。また、「ぞうきんプロジェクト」では、小学校や中学校の備品並びに市の防災備蓄品として地域の高齢者が作成した手作りのぞうきんを寄贈した。

元気づくり事業では、介護予防カレンダーの配付などを通して、参加者の状況把握やセルフケアの促進を行った。

介護支援専門員への支援として Zoom を利用し、医師や臨床心理士をスーパーバイザーに迎え、オンライン形式で事例検討会を行った。

4 主要な施策の成果

(1) 総合相談支援業務

① 総合相談受付件数 5,677件 (実人数514人) (件)

電話相談	来所相談	訪問相談	文書	合計
3,617	496	1,513	51	5,677

② 実態把握業務

業務内容	主な内容	件数
高齢者世帯実態把握二次調査	郵送調査による包括の訪問希望者のみ	66

③ 地域におけるネットワークの構築

分類	主な内容	回数
会議・打合せ	民生委員会議、施設会議などへの参加・打合せ	33
活動支援	サロン活動、ボランティア団体会議への参加など	38

出前講座	熱中症予防、認知症サポーター養成講座など	30
出張相談	なんでも相談会	1

(2) 権利擁護業務

① 相談

相談内容	件数	実人数
権利擁護・成年後見人制度関連	9	3
虐待関連	16	8

② 啓発講座

講座内容	回数	参加者数
交通安全、消費生活アドバイス	17	192

(3) 包括的・継続的ケアマネジメント支援業務、介護予防ケアマネジメント

分類	主な内容	回数・件数
相談支援	介護支援専門員・サービス事業者への相談支援	1,020件
会議・研修	介護支援専門員を支援するための会議・研修	11回
地域ケア会議	エリア会議開催、自立支援型地域ケア会議参加	16回
在宅医療・介護連携	在宅医療・介護連携会議などへの参加	3回
生活支援体制整備	2層協議体・打合せ・会議・サロン支援など	42回
一般介護予防事業	訪問型・通所型サービス等の調整	47件

(4) 介護予防支援事業所

主な内容		回数・件数
給付管理	介護予防支援 延べ957件	延べ1,245件
	介護予防ケアマネジメント 延べ288件	
介護予防サービス計画サービス担当者会議の開催		119回
要介護認定申請書などの申請を代行		194件

(5) 市受託事業

① 元気づくり事業

事業名	主な内容	回数	参加者
自立支援教室	体操&太極拳	18	280
	自宅で取り組む毎日チャレンジ	12	400

② 認知症施策推進事業

事業名	主な内容	回数	参加者
認知症カフェ	1か所の茶話会・和光病院院長講話	7	88
サポーター養成講座	小学生・市役所職員向け、認知症理解講座	1	27
声かけ模擬訓練	フォローアップ講座、声かけ模擬訓練	中止	中止

(6) 会議・研修

① 職員外部研修 29件 延べ43人参加

② その他関係会議 39回

【志木市高齢者あんしん相談センター館・幸町】

3 重点施策への取り組み

コロナ禍により、生き生きと暮らすために欠かせないこと（居場所・人間関係・役割・社会制度・互助活動・経済的安定）が脅かされている状況を見逃さず、ウイズコロナで感染症対策を講じ、相談支援業務や各種事業を展開した。

地域ケアエリア会議を活用し、困難事例の解決や地域課題の把握、多職種が協働する姿勢の継続、ケアマネ支援などを行った。

高齢者サロンや地域活動が休止に追い込まれる中、交流活動が再開できるよう住民とともに考え、いくつかの活動を再開することができた。

医療と介護の連携においては、医療機関に足を運ぶことが制限される状況が続いているが、在宅医療がスムーズに受けられるよう医療機関との連携に努めた。

生活支援体制整備事業では、地域の支え合いや見守りを意識した「地域をつなぐ住民フォーラム」を「コロナ禍における地域活動のすすめ方」の講演会に代え、館、幸町地区の住民約40人が参加した。

4 主要な施策の成果

(1) 総合相談支援業務

① 総合相談受付件数 6,738件（実人数535人） (件)

電話相談	来所相談	訪問相談	文書	合計
4,257	418	1,778	285	6,738

② 実態把握業務

業務内容	主な内容	件数
高齢者世帯実態把握二次調査	民生委員調査後の二次調査	72

③ 地域におけるネットワークの構築

分類	主な内容	回数
会議・打合せ	民生委員会議、施設会議などへの参加・打合せ	4
活動支援	老人会、サロン、ボランティア活動支援・協力	19
出前講座	サロン、町内会の講座など	2
出張相談	館出張相談所、なんでも相談会	5

(2) 権利擁護業務

① 相談

相談内容	件数	実人数
権利擁護・成年後見人制度関連	28	14
虐待関連	55	7
認知症関連	38	27

② 啓発講座

講座内容	回数	参加者数
交通安全、消費生活アドバイス	4	32

(3) 包括的・継続的ケアマネジメント支援業務、介護予防ケアマネジメント

分類	主な内容	回数・件数
相談支援	介護支援専門員・サービス事業者への相談支援	1, 690件
会議・研修	介護支援専門員を支援するための会議・研修	11回
地域ケア会議	地域ケアエリア会議開催	11回
	自立支援型地域ケア会議参加	10回
認知症総合支援	認知症地域支援推進員会議	2回
	認知症初期集中支援チーム	2回
在宅医療・介護連携	在宅医療・介護連携会議への参加、受診支援	33回
生活支援体制整備	打合せ・会議・サロン支援、フォーラムなど	11回
多世代交流	保育園とサロンとの交流、保育園の見学・交流	2回
一般介護予防事業	百歳体操立ち上げ・活動支援、体操会	15回
地域活動活性化	手しごと教室	中止

(4) 介護予防支援事業所

主な内容		回数・件数
給付管理	介護予防支援 延べ1, 218件	延べ1, 924件
	介護予防ケアマネジメント 延べ706件	
介護予防サービス計画サービス担当者会議の開催		125回
要介護認定申請書などの申請を代行		275件

(5) 市受託事業

① 元気づくり事業

内容	主な内容	回数	参加者
自立支援教室	青空体操・ウォーキング・脳活性化ゲーム	16	154

② 認知症施策推進事業

事業名	主な内容	回数	参加者
認知症カフェ	1か所の茶話会・講演会	2	32
サポーター養成講座	小学校や地域団体へ認知症の理解講座	1	43
声かけ模擬訓練	フォローアップ講座、声かけ模擬訓練	中止	中止

(6) 会議・研修

- ① 職員外部研修 20回 延べ37人参加
 ② その他関係会議 50回

サービス区分 17 志木市総合福祉センターに要する経費

(地域福祉課)

1 事業の概要

住み良い地域社会の形成と福祉の増進を図るため、子どもから障がい者、高齢者までさまざまな利用者が安心して利用できる地域福祉拠点施設の運営を行うとともに、複合施設の利点を活かし、関係機関や団体と連携した事業を実施した。(指定管理者)

2 支出決算額

勘定科目	決算額 (円)	説明
人件費支出	15,200,854	職員人件費
事業費支出	257,956	自主事業
事務費支出	26,469,860	事務管理費
固定資産取得支出	140,580	音響機材
支出合計	42,069,250	

3 重点施策への取り組み

コロナ禍における施設利用の促進及び利便性向上のため、1階ホール及び4階会議室等の全11部屋にインターネット環境の整備を行い、無料で使用できるインターネットサービスを開始するとともに、利用者の会加入団体には、パソコン（Zoom）画面をプロジェクターで投影した説明を行い、リモート活動の提案を行った。

総合福祉センターまつりは、地域の人々の交流を進めるイベントからサークル等の活動成果の発表に主目的を見直し、映像上映や作品展示を行う「総合福祉センター活動発表会」を実施した。

4 主要な施策の成果

(1) 施設利用状況

開館日数 355日

施設名	利用回数	利用人数
ホール	492	15,241
201会議室	337	2,982
202会議室	362	3,127
203会議室	734	2,055
合計	1,925	23,405

<臨時休館>

- ① 6月27日（非常用発電機交換工事のため）
- ② 7月11日、8月29日、2月13日の3日間（電気点検、館内清掃のため）

(2) 感染症対策

- ① 施設利用の条件・ルールの変更

市の新型コロナウイルス感染症対策本部会議の決定を基に、感染状況に応じた利用条件を定め、感染機会の減少に努めた。施設利用者には、利用条件の変更を行った際は新しい利用条件を周知し、感染症対策の協力をお願いした。

② 施設整備

マイクの共有を避けるため、ホールの音響設備を更新して使用できるマイク本数を増やした。また、すべての階の多目的トイレの水栓を自動水栓に交換した。

③ 館内の感染対策

館内のこまめな換気を行い、ホール等には二酸化炭素濃度計を設置し、換気の日安とした。また、ロビー、トイレ等の共有スペースについては1日4回以上、部屋は利用後に職員によるアルコール消毒を毎日実施した。

(3) 事業実施状況

① 総合福祉センター活動発表会（宗岡第二公民館共催）

実施日：3月5日～3月21日

（総合福祉センターまつり代替事業として実施）

② 普通救命講習会（宗岡第二公民館共催）

実施日：7月16日 参加者数：16人（職員研修として実施）

③ 映画会（児童向け）（宗岡第二公民館、児童センター、宗岡子育て支援センター共催）

実施日：5月8日 参加者数：18人

④ 地域ふれあい交流事業、オリンピック・パラリンピックパブリックビューイング、ミニサマーコンサートは、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止した。

(4) 防火管理・安全対策・職員研修

火災、地震、水害、事件・事故などの危機に明確かつ迅速に対応できるよう、危機管理マニュアルを作成し、職員及び関係者へ周知し、火災を想定した消防訓練を実施した。また、市と締結している「災害時における公共施設の使用に関する覚書」に基づき、発災時の市との連携方法の確認及び避難所開設・運営訓練に参加した。

① 消防訓練 年2回実施（9月27日、2月25日）

② 企業人権研修会・社協基礎研修・普通救命講習会 3件 延べ10人参加

③ 避難所開設・運営訓練 3人

(5) 印刷機貸出及びコピーサービス

地域福祉を推進する団体などに、印刷機、大判コピー機の貸出及びコピーサービスを実施した。

コピー	モノクロ	3,789枚
	カラー	226枚
大判コピー		6枚
印刷機		101件

(6) 利用者アンケート

利用者カードによりアンケートを実施し、利用者の声を尊重した施設運営を進め、意見・要望を参考に快適な施設提供を行った。（集計数516件）

サービス区分	18 宗岡第二公民館に要する経費
---------------	-------------------------

(地域福祉課)

1 事業の概要

住民への教養の向上をはじめ、健康を増進し、生活文化の振興、社会福祉の増進を図るため、利用者の誰もが安心して利用できるように施設の運営を行うとともに、関係機関や団体と連携して各種事業を実施した。(指定管理者)

2 支出決算額

勘定科目	決算額 (円)	説明
人件費支出	15,572,297	職員人件費
事業費支出	3,003,890	公民館事業、図書室事業
事務費支出	8,980,718	事務管理費
支出合計	27,556,905	

3 重点施策への取り組み

感染症対策と利用促進を両立するため、定員を減らして事業の分散実施やWEB講習の導入、感染リスクの低い内容の一部変更するなどして講座を実施した。

図書室においては、児童及び子育て世代の利用を拡大するため、シリーズものを含めた書籍の計画的な購入を進めた結果、児童書貸出点数は年間で13,645点から18,398点へ、1日あたり48.0点から54.7点と大幅に増やすことができた。

その他、図書室サービスの向上として、専用機械による視聴覚資料約1,000点の状態チェックを行い、傷が深いものは研磨作業を行い、有効活用できるようにした。

4 主要な施策の成果

(1) 施設利用状況

開館日数 354日

全10室 2,922回 26,881人利用

施設名	利用回数	利用人数	施設名	利用回数	利用人数
401会議室	387	4,850	406会議室	293	2,214
402会議室	295	4,614	和室	86	454
403会議室	201	958	調理室	88	949
404会議室	300	1,723	トレーニング室	638	5,589
405会議室	313	3,195	美術工芸室	321	2,335

<臨時休館>

- ① 6月27日 (総合福祉センター非常用発電機交換工事のため)
- ② 7月11日、8月29日、10月31日、2月13日の4日間 (電気点検、館内清掃のため)

(2) 事業実施状況

- ① 自主事業 20事業 119回 参加者1,583人

実施した事業は、受付での検温と手指消毒、休憩時間などの換気、会場を大きい部屋に変更、複数回にして少人数にするなどの感染症対策を行った。

分類 (事業数)	事業名	回数	参加者
高齢者事業 (1事業)	寿大学	18	610
一般成人事業 (4事業)	健康生活講座、普通救命講習会、スマホ写真講座等	6	80
図書室関連事業 (2事業)	時代劇上映会、リサイクル図書無料配布会	20	240
家庭教育・子育て支援事業 (5事業)	えいが会 (春)、おもちゃクリニック、陶芸体験、書初め練習会等	13	166
青少年事業 (1事業)	中学生の勉強会	32	176
学校連携事業 (1事業)	子ども陶芸教室	4	84
地域福祉事業 (3事業)	おとこの木あそび、パステルアート、写真教室	22	175
地域連携事業 (1事業)	羽根倉子ども会「工作教室」	1	21
サークル支援事業 (1事業)	陶芸窯利用講習会	2	31
館内共催事業 (1事業)	総合福祉センター活動発表会	1	自由観覧のため 人数計上なし

(休止した事業：一般成人事業 (2事業)、図書室関連事業 (8事業)、家庭教育・子育て支援事業 (1事業)、館内共催事業 (2事業))

② 陶芸用電気炉利用状況

延べ23回 (素焼き11回、本焼き12回)

③ 図書室運営 開館日数336日

返却資料の拭き取り消毒、閲覧席の制限など感染症対策を徹底し、開室した。

ア. 利用者数 (人)

児童	青少年	一般	団体	合計
2,382	183	8,442	150	11,157

イ. 貸出資料数・リクエスト受付数

	児童書	一般書	雑誌	AV資料	合計
貸出資料数(点)	18,398	13,379	2,473	3,263	37,513
リクエスト受付件数	793	3,708	911	308	5,720

④ ボランティア協力

読み聞かせボランティア (えほんであそぼ) による図書室内のよみきかせは、感染症対策のため中止した。活動を絵本製作に切り替え、完成した絵本を貸し出し図書とした。さらに、よみきかせ動画の撮影をすすめ、よみきかせ動画の上映に向け準備を行った。

(3) 防火管理・災害対策・職員研修

総合福祉センター危機管理マニュアルに基づき、総合福祉センター内の各施設と連携し、消防訓練を2回実施した。また、利用者サービスの充実に必要な研修として、認知症理解研修、絵本の修理研修、普通救命講習会、社協基礎研修に延べ12人参加した。

(4) 利用者アンケート

利用者カードによりアンケートを実施し、利用者の声を尊重した施設運営を進め、意見・要望を参考に快適な施設提供を行った。(集計数1,999件)